

神奈川県立こども医療センターオレンジクラブ



## ボランティアニュース

214号 2021年9月号

発行 神奈川県立こども医療センター オレンジクラブ事務局

編集責任者 ボランティアコーディネーター 加藤 悦典

〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 Tel. 045-711-2351 (代表)

ホームページ <https://orangeclub.kcmcvolunteer.com>

ブログ <https://blog.kcmcvolunteer.com>

### 僕がこころ動かされること

泌尿器科部長 山崎雄一郎

自分は勝手な人間で、若い頃からボランティアという言葉からはほど遠い生き方をしてきた。誰かのためにと始めても、最後は自分のためにがんばってきた。

頑張った分は評価してもらいたい、そういうケチな根性の持ち主である。無償で人のために尽くす、そんなボランティア精神には、還暦すぎた今でもたどり着けていない。

いつもこども医療の正面玄関で案内に立たれるボランティアの方々を見るにつけ、立派だなー、俺は小さい人間だなーと感じている。

そんな僕がボランティアニュースの原稿を依頼された。主宰するランフォーキッズ・プロジェクトのTシャツ販売で得た収益を、院内ボランティアのオレンジクラブと宿泊施設のリラの家に寄付させていただいている繋がりからだ。しかしこれはランまるTシャツを買っていただいた皆様の気持ちであって、僕が誇るようなことではない。それでもこういう繋がりで自分の視点が広がっていく。こども医療であたりまえのように目にする季節ごとの院内装飾、玄関ホールで行われるイベント、そういったことに目が止まるようになった。

外科医になった時からどうしたら手術が上手くなるか、そればかりを追いかけて来た。モノクロの手術書の世界、無影灯の下の世界に没頭した。手術で北米や国内の小児病院を数多くめぐって、カラフルな内装に感心しながらも「こども病院だからな」で済ませてきた。でも数年前センターツリーに飾られた無数のクマが、皆ボランティアの皆さんの手作りと聞いて驚いた。どれだけの時間がこの装飾にかけられたのだろうか。

お金をかければ見栄えのいいものはできる。お金を寄付することも立派な行いである。でも僕が本当に心を動かされること、それは物にしても、行為にしても、その裏に費やされたであろう時間である。こども医療の玄関ホールから見上げるとき、渡り廊下を歩くとき、想像して欲しい。一人でも多くの子供が、親が、喜んでくれたらという気持ちで、自分の知らない誰かが費やしてくれた宝物のような時間を。



(写真は自粛中のボランティアさんに変更山崎先生からご寄付を受け取る様子 ボランティアコーディネーター)

## 「夏飾り」第2段！

7月に総合待合等の夏飾りをニュース 7,8月合体号で紹介しました。その後とてもハッピーな続きがありましたのでお知らせします。センターを利用する皆さんから寄せられる「みなさんの声」に、8歳の河野みのりさんからの声をお母さまからお届けいただきました。その後のやり取りをお伝えします。



みのりさんとお母様より

「夏のディスプレイ、とても楽しいです。小学3年生になった娘が『ママ、おさかな！すごいね！』といい、『あたしもやりたい！』と言い、大人の発想で、『うーん、ママ作れるかなあ』と言うと（フェルトで作ると思い）『じゃあおりがみで作ろうよ！』と言われ・・・なるほど。おりがみで作り、壁に貼りたいとおもいます。いつも、吊るされているディスプレイが大好きです。特にミリオン。ぜひ、この魚たちも沢山になったら吊るしてください。会計広場を水族館にしてください。

(ニュースに載せていいかお伺いしましたところ、快諾のお返事と一緒に素敵な写真を頂きました。)

まさに昨日・・・我が家の水族館が完成しました。ちょうどタイミングであの手紙を受け取りなんとも嬉しかったです。ボラのみなさんにお伝えしたくて書いたのを読んでもらえる場があるのならお願いします。画像も添付します(笑) 本人の名前も顔もオープンOKです。



ウォー！みのりちゃんの水族館の方が🐟🐠凄いい迫力があるし、色使いもぐー(thumbs up) 可愛い親子連れが、みのりちゃんとお母さんを想像してしまいます。それに、みのりちゃんの写真がとっても素敵毎日コツコツと作り上げたんですね。みのりちゃんの写真からお母さんと会話もはずみ楽しみながらの毎日だったんだろうね。素敵です。私たちががんばるぞー。

手芸グループ 谷内さんからのメッセージ

(みのりさんからのメッセージは、ボランティアさんたちに届いています。ありがとうございました。)

## 【ZOOMで家庭教師のボランティア活動】

横浜市立大学ボランティア団体 one by ONE の代表の前田憲人さんは、オンライン（ZOOMを使用し）家庭教師を行っています。現在 8名の学生さんがオレンジクラブの会員になり、夏休み期間肢体不自由児施設「つばさの木」の中学3年生と2年生計5名の方に4回、クリーン病棟の方1名に学習支援がなされました。事前にお子さんたちのやりたいことを聞き、進めてきました。夏休み後も定期的に活動を続けていく予定です。

## コロナ禍での工夫

認定 NPO 法人スマイリングホスピタルジャパン 松本恵里

SHJ の活動は、音楽、お話、マジック、ものづくりなど、子どもたちとアーティストが互いにコミュニケーションを取りながらの参加型アートです。ですので、感染予防のため実際に訪問できないのは、活動ができない！ということの意味します。

そんな中、神奈川県立こども医療センター重症心身障害児施設“ひだまり”では、スタッフの皆さん、そしてボランティアコーディネーター加藤さんが、ぜひ、とオンライン訪問の実現に協力くださり、6 月から月に1度活動できるようになりました。

コロナ禍にあって、互いにやりとりができるオンラインシステムは、私たちの活動の継続に大きな力になりますが、音質や音量、カメラの角度や距離の機動性など課題が満載です。

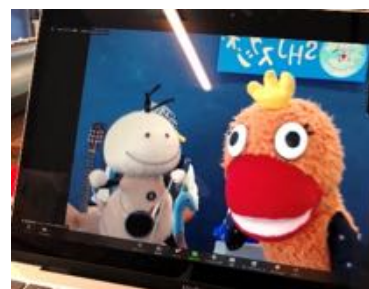
お話、BGM、ピアノやギターの弾き語りなど、複数の音が組み合わさると、音源同士がケンカをして音質が下がったり、相手に途切れ途切れに聴こえてしまったりするのです。複数の音を程よくミックスするための機材を揃え、マイクの選び方や設置場所、そしてスピーカーのチューニングなど、スタッフが色々な案を持ち寄った結果、少しずつその質も上がり、画面の向こうの皆さんに楽しんでいただけています。

さて、毎回、違ったアーティストが訪問する中で枠組みを設定しました。

その一つとして、SHJ の公式マスコット“スマホジちゃん”と相棒のエビフライびー子が進行を務めます。SHJ の活動が始まるよ、という合図により子どもたちに見通しを持って参加してもらいたいという願いからです。

もう一つは、毎回その月にお誕生日を迎える方に向けた、Happy Birthday の歌のプレゼントです。

ニックネームと年齢をあらかじめ伺っておき、「〇〇さ〜ん、お誕生日おめでとう！」と声かけしながら、それぞれ個性的なパフォーマンスでお祝いします。



6 月の第1回は声優のゆかりさん、とみちゃんによる「お話ライブ」。

7 月は歌のゆうこお姉さんと翔太お兄さんによる「一緒に歌おう！」。

8 月は声優のゆかりさん、とみちゃんによる「お話ライブ第2弾」。

お話ライブではお話の中のクイズに答えてもらったり、歌のライブではメッセージ付きのうちわを作って振ってくれたりとその一体感はリアルライブさながら。



残る課題は、ミュート on/off のタイミングです。パフォーマンスの間はミュートにしておかないと雑音が入ってしまい聞き取りにくくなる一方、コミュニケーションをとるときにミュートを解除する操作が双方で難しい時があり、事前の打ち合わせが必須です。

何れにしても、画面越しでも活動ができるオンラインの利点と臨場感を最大限に活かして、皆さんの笑顔を原動力に、これからも質を高めながら続けていきたいと思っています。(写真は、翔太お兄さん、ゆうこお姉さん)

(ボランティアコーディネーターから) 重心施設「ひだまり」は、センター内でもより感染対策が強く求められ、実施されております。その中でも、入所者の皆さんに楽しんでいただけるようにたくさん駆使されています。

SHJ の活動は大切な活動です。生活支援課の佐藤さんが調整し、ご家族にも見て頂ける様にブログにも発信しています。活動して頂いた「翔太お兄さん、ゆうこお姉さん」へのメッセージを、ここでご紹介します。

『先日は忙しい合間をぬって、ひだまりの子ども達と職員へ素敵な歌を届けていただきありがとうございました。画面越しから、お二人の気遣いが伝わっていたのでしょうか。各部屋、各画面のこどもたちは大絶叫していました(笑) お手製のうちわやタンバリンを持って参加していたこどもたちですが、(こちらのドタバタ劇も含め)とても楽しんでいました。一緒に歌ったり、手をたたいたり、ぼよよんと飛んだり、普段の単調になりがちな生活の中で素敵な時間を過ごすことが出来ました。本当にどうもありがとうございました。ぜひまたの機会をつくっていただけたら嬉しいです！！こどもたちと次回開催を楽しみにしています！(本当は早く生歌が聞けるようになることを願っています🍀)』



### 夏休の活動から～【京急油壺マリンパーク水中探索】

京急油壺マリンパークより入院しているお子さんやご家族に、リモート水中探索プレゼントがありました。12セッション31回およそ70人のお子さんやご家族が見ました。当初水中ドローン进行操作しながら見る企画でしたが、ドローンがサメに襲われて固定したカメラからの水中探索になりました。『どのサメがドローンをおそったのかなあ』『あ、サメがまた来た』『魚がいっぱい！』『サメがこわいね』『水族館が閉館したら、この魚たちどうなるんだろ』など、沢山の会話があり楽しんでいただきました。油壺マリンパークの皆さんありがとうございました。



### ぽぽんた通信④

きくちゃん

上大岡の「ひまわりの郷」ホールで津軽三味線と和太鼓と唄のコンサートがあり出かけた。津軽三味線の音色はとても好きで、青森へ大合奏を聞きにいったことがある。又、別の日 弘前に行った時も居酒屋で食事をしていたら、お店の人が前掛けを外して、津軽三味線を聞かせてくれた。

昨日のプログラム 1 番は「津軽よされ節」、この「よされ」とは、世が去れ 世を去れ の意味がある。凶作や疫病(を)(の)世を去れ 世が去れ を念じて歌うそうだ。今 コロナ感染に苦しむ私たちの心からの願いだ。

和太鼓の音は身体中に響いて「コロナ退散 コロナ退散」と唱えてしまうほどだ。

このコンサートはコロナ禍のため、久し振りの舞台だそう。三味線 3 人 和太鼓 1 人 民謡歌手 1 人のそれぞれは、合同で練習する事が出来なくて前日のリハーサルで音を合わせたという。やっぱりプロだな。

私たちは マスク、手洗い、ソーシャルディスタンス を守りながらも日々の生活が味気ない物にならないようにしたいものだ。

【お知らせ：9月のボランティア調整会議は延期いたします。】